

杏雲堂病院の前身である杏雲堂醫院開設の年は、これまで「杏雲堂病院百年史」などに記載のあるように明治 14 年(1881)とされてきており、前号の「すこやか通信」でもそのように書きました。しかし、その開院日がいつであるかはこれまで不明でした。ところがこの度、酒井シヅ先生（順天堂大学客員教授、医史学）のご協力によりついにその開院年が、明治 14 年ではなく明治 15 年であり、かつ開院日が 6 月 1 日であることが判明しました。以下はその証拠となる開院広告記事（東京日日新聞及び醫事新聞、明治 15 年 5 月 20 日号）です。

「脚気は本邦の地方病と称すへき者にして我政府至仁の典 曩（さき）に明治十一年を以て脚気病院を設けられ 委員を置き 五年を期して本病の原因治法等を検究せしめらる 東洋も亦治療委員の命を奉し 爾来孜々（しし）今日に及へり 然るに今般該病院を廢せられたり 因てここに一病院を私設し 今後三年を期し 汎く本病者を治療し以て孜々の素志を達せんと欲す 乃ち余が治療を受けんと欲する諸君は本院に就き規則を一覽して入院あれ。
六月一日開院 駿河台西紅梅町三番地 佐々木東洋」

お分かりのように、明治 15 年 5 月 20 日号の広告に、「六月一日開院」と明記してあるのですから、杏雲堂醫院開院日はまさに、「明治 15 年 6 月 1 日」であるわけです。

佐々木東洋が駿河台に杏雲堂醫院を開院したのは、明治 11 年から 15 年まで当時の国民病だった脚気を治療するために設けられていた公立の病院が閉鎖されたので、東洋自身が脚気病院を作ることを決意したからです。

明治 15 年（1882 年）から数えて平成 19 年（2007 年）は、丁度創立 125 周年に当たります（なお、御茶の水界隈の病院としては、創立 168 年の順天堂医院、創立 126 年の井上眼科に次ぐ古い歴史を持つ病院です）。これを機会に記念行事として内外に杏雲堂病院のことを知って頂くため、当日に佐々木記念ホールで創立記念講演会を開催しました。さらに、創立 125 周年記念事業として、杏雲堂病院の目標を「がん特化」としました。

詳しくは、(公財)佐々木研究所ホームページ (<http://www.sasaki-foundation.jp/>) 及び杏雲堂病院ホームページ (<http://www.kyoundo.jp/index.html>) をご覧下さい。